

私の戦争体験

第33集 2011親子で学ぶ平和学習資料

おじいさんやおばあさんが体験した
大切な大切なお話の数々



●巻頭特集

核のない世界を『原爆と原発。その関係』 P.2

戦争体験 秋田 すみ江 P.6

青春は灰色 稲田 稔子 P.7

も「建物疎開について」 井本 俊夫 P.8

く東京での戦争体験と終戦体験 若林 京子 P.9

じ 忘れない、あの日のことは… 景山 マサ P.11

私の幼少時代 石井 正人 P.12

私の戦争体験 石井 節子 P.14

●めざそう！核兵器のない世界を

「核兵器禁止条約」の実現をめざします P.15

戦争体験

奈良県葛城市 秋田 すみ江 (80歳)

昭和16年12月大東亜戦争(※①)が始まりました。私は高等小学校を卒業する前で14歳でした。

当時、就職するといっても軍需工場(※②)の仕事ばかりです。男の子は予科練(※③)、女の子は従軍看護婦(※④)として、どの子もお国のために戦地へいく覚悟をしていました。戦争も次第に激しくなり、学校の勉強より仕事の方が大事と男子大学生は学徒動員(※⑤)、女子学生は工場へと勉強もできない有様でした。

私は家が農家なので田畑を手伝っていたある時、役場から赤紙(※⑥)がきて挺身隊(※⑦)の月○日出発と書いてあり、愛知県豊川にある海軍工廠(※⑧)に召集されました。私は同じ村の女の子と二人で朝、村の人々の「万歳！」の声とともに両親が現地まで送っていつてくれました。三重県上野市にある安定所に約200人が集められ、一緒に行きました。

豊川海軍工廠の寮に入ると男女別々に部屋に6人くらいずつ入りました。その後は、父母や家族との別れが待っていました。なんとも淋しく悲しい思いでおりました。

私たちは寮長よりこれからの日程の説明を聞きました。それは、工場で「機銃器Ⅱ武器」などの製造で大きな機械を動かす仕事でした。

次の日からみな整列して出勤しました。本社の工場は何千人といえます。私たちは山のふもとの分社工場に動員され、先輩から機械の使い方を教えてもらい昼夜交代で働きました。この工場でも米軍のB29(※⑨)からの爆撃を受けると、必死で近くの防空壕(※⑩)に入ります。その合間にまた働きます。

時折、私の母が三重県名張市から面会に来てくれました。その時はリュック一杯の荷を背負って、中にはメリケン粉(※⑩)にサツマイモを入れた団子を持ってきてくれ、部屋

※①大東亜戦争
太平洋戦争の日本側での当時の呼び方。

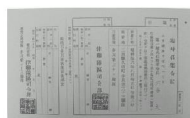
※②軍需工場
武器・弾薬をはじめとする軍需品を開発・製造・修理・貯蔵するための施設。

※③予科練
「海軍飛行予科練習生」の略称。旧日本海軍で、飛行機搭乗員育成のため、1930年(昭和5)に設けられた制度。14、15歳の少年に約3カ年の基礎教育を行なった。

※④従軍看護婦
軍隊に従って野戦病院などで看護活動を行う女性看護師のこと。

※⑤学徒動員
戦争の拡大に伴う農村・工場などの労働力の不足を補うための学生・生徒の強制的動員のこと。

※⑥赤紙(召集令状)
軍務につくことを命じる書状が淡い赤色をしていたため、俗称赤紙(あかがみ)とされた。



※⑦挺身隊
任務を遂行するために身を投げうって物事をすすめる組織。

※⑧海軍工廠
旧日本海軍で艦船や兵器の設計、製造、修理、検査、補給、購買を担当した工場と、これを統括した機関の総称。

※⑨B29
アメリカのボーイング社が第二次世界大戦中の1942年(昭和17)に完成した長距離用爆撃機。日本本土の軍事施設を破壊するとともに、都市に対する無差別爆撃を行い、戦局に大きな影響を与えた。広島と長崎に原子爆弾を投下したのも同型機である。

※⑩防空壕
空からくる敵の攻撃に対し、人員や施設



でみんな喜んで分けて食べました。その夜は久しぶりに母と寝ます。とても嬉しかったです。いよいよ戦争が激しくなり、本社工場が爆弾を受けて何千人の人が亡くなり、壊滅状態でした。その日は昭和20年8月7日でした。工場ももうお終いです。私たちはその後、片づけて忙しく働きましたが天皇陛下の玉音放送(※⑫)により、昭和20年8月15日終戦になりました。働いていた私たちはみんな、それぞれの家族のもとへ帰ることが許されました。私はその当時、戦争が終わったなどと思う余裕もなく、ただ家に帰れる喜びしか子ども心にはありませんでした。

青春は灰色

せいしゆん はいいろ

まつばらし いなだ としこ
松原市 稲田 稔子 (79歳)

昭和20年。わが高知市も戦時色濃く、下駄履き、モンペ(※①)姿の登校。授業らしきものは一切なく、来る日も来る日も防空壕の穴掘りと紙の原料となる楮の皮(※②)を包丁で削る作業の毎日でした。上級生は体育館に暗幕を張り、外からの視界を遮って親にも言わぬようにと言われる作業をしておりました。その作業内容は、未だに不明です。

女学校の隣がNHKの放送局だったため、米軍の標的となり、度々空襲を受け、焼夷弾(※③)の流れ弾を受け、校舎が燃えたり、米軍の顔が見えるほど低くB29が飛んで機銃掃射(※④)を受けたことなど、恐ろしい思いは幾度も経験しましたが、幸いにも先生方や級友の中に被害者はありませんでした。

ラジオより「敵機来襲 大阪方面を目標して紀伊水道(※⑤)を北上中」というニュースを毎晩、防空壕の中で聞きました。高知市も一度だけ空襲を受けましたが防空壕に逃げて事なきを得ました。

奇しくも8月15日。終戦日になるとも知らず、私たち2年生は集団疎開(※⑥)に出発しました。

を守るため地を掘ってつくる穴やみぞ。

※①メリケン粉
小麦粉のこと。

※⑫玉音放送

1945年(昭和20)8月15日正午から、昭和天皇自らが太平洋戦争終結の決定を国民に伝えるために行った録音放送。

※①モンペ

農山村の労働着。第二次世界大戦中は女子の非常時服として採用され、全国的に普及した。

※②楮の皮

クワによく似た木で、木の皮を紙の原料とするために栽培した。



※③焼夷弾
敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾。木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使用された。

※④機銃掃射

機銃の銃口を動かし、敵をなぎ払うように射撃すること。

※⑤紀伊水道

和歌山県、徳島県、淡路島にかこまれる海域。

もう会えないかもしれない家族に送られ、帯芯(※⑦)で母の手縫いのリュックに、当時貴重なサツマイモのふかしたものを2個と下着を少し入れての旅立ちでした。朝、学校を出発、町を外れて道を一列になってひたすら歩きました。

夜になっても休むことなく谷川のせせらぎを聞きながら、暗い道を誰もが勝利を信じての行進でした。やっと山寺に着いたのは夜中です。住職さんに「日本は負けたよ。今日、天皇陛下の玉音放送があったんよ」と聞かされても半信半疑でした。

翌日より、豆かす(※⑧)、イモのつる、里芋入りのお粥で、こんにやく芋堀の作業が続きました。夜一人が庭に出て「お母ちゃん」と泣き出すと4〜5人が天を仰いで泣いたものでした。数日後、教頭先生が迎えに来てくださった日の嬉しかったこと。

無事家族と再会できました。ただ、おじ4人が若くして出征(※⑨)。ラバウルからシベリアからと、一人また一人と戦死の知らせ。遺骨が帰るたびに祖父は膝に抱いて涙も見せず耐えていました。泣くことは許されない時代だったのです。こうして復員した私のおじはたった一人でした。

思えば私の青春時代は灰色でした。今の子どもや孫には絶対に味わってほしくない戦争。いいことは一つもないのですから。

「建物疎開」について

堺市 井本 俊夫(78歳)

私は「戦争体験集」にあまり掲載されてこなかった「建物疎開(※①)」について述べたい。昭和19年の始めごろ私は12歳。神戸市内の和田岬に住んでいました。そばには三菱造船所、三菱電機などの大工場がありました。造船ビル3階の屋上には、高射機関銃(※②)が一門すえられ、50余名の守備隊兵士(※③)が守っていました。当時の私たちは、夏から全国で無理やり実施される「学童疎開(※④)」の心細さですっかり落ち込んでいました。

※⑥ 集団疎開
戦局の悪化に伴い、戦禍を避けるために大都市の人たちを地方都市や農村に集団的に移住させたこと。学童疎開もその一種。

※⑦ 帯芯

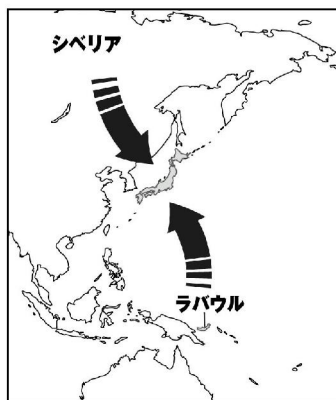
女性の帯の形を保つために入れる厚い綿布。三河木綿・河内木綿など。

※⑧ 豆かす

戦時に米の代わりに食品として配給された食品。米とまぜて炊いて食べた。

※⑨ 出征

軍隊に加わって戦地に行くこと。



※① 建物疎開

官公署や軍事施設、軍需工場などを空襲による被害から守るための民家の取り壊しと市民の強制立退きのこと。

※② 高射機関銃

侵入する敵機を迎撃するのに用いる火砲。旧日本陸軍での呼称で、海軍では高角砲といった。



そんな折、神戸にも昼間、私たちにはつきり見える超低空で敵機の編隊(※⑤)の爆撃を受けました。頭上を通り過ぎてから3分程度後、警戒警報のサイレンが鳴り、屋上の高射機関銃が初めて火を噴きました。みんな夢にも思っていなかった出来事でした。

軍部は特に大きなショックを受けたのでしよう、慌てて「軍需工場を空襲の類焼(※⑥)から防ぐため」という口実で「建物疎開」という家屋破壊を始めたのです。三菱造船所に隣接した和田崎町一丁目は全戸が疎開対象になり、全てが潰され更地になりました。私たち2丁目は市電の電車道という空間があったので全戸対象から外れました。軍部は何事でも一般者には有無を言わせませんでした。

自分の家が破壊されていく様子を家主さんは悔しくて見る事ができなかつたでしょう。当時は、ユニボ(※⑦)のような大型機械はなく、すべて人手です。多数の工夫(※⑧)がかり出され、ロープなどを使って引き倒していました。私は向かいの良く利用した大きくて立派な商店が潰れたときの光景は66年を過ぎた今でも瞼の裏に焼きついていきます。建物疎開が一段落した後、町の様子を見るため兄とともに校区内を見て回りました。家がぎつしりと詰まっていた下町の和田岬周辺の町はどこどころ虫食いにあった町と変わり果てていました。建物疎開が神戸空襲(※⑨)の折、効果を発揮したとは聞いていません。

東京での戦争体験と終戦体験

東大阪市 若林 京子(82歳)

突然、「ウー ウー ウー」「空襲警報発令」。この頃の東京は毎晩11時頃、B29爆撃機が編隊でやってくる。親子3人畳を一枚上げ、しゃがんだらやっと頭が隠れる粗末な防空壕に入ってしまったら、爆音とともに「バラ バラ バラ」と焼夷弾がまかれる。火の手があちこちにあがる。防空演習で鍛えたおばさんたちが、防空頭巾にモンペ姿でバケツ、はしご、火たたきで手際よく消していく。されど油脂焼夷弾(※①)はそうも

※③ 守備隊兵士 守備のためにおく軍隊。敵襲にそなえて配置された軍隊。また、一定地域の治安を守るために配置された軍隊。

※④ 学童疎開

1943年(昭和18)末ころから、第二次大戦の戦局の悪化に伴い、戦禍を避けるために大都市の学童を地方都市や農村に集団的また個人的に移住させたこと。

※⑤ 編隊

複数の飛行機が隊形を組むこと。

※⑥ 類焼

他所で起こった火災が燃え移って焼けること。

※⑦ ユニボ

一般にはパワーシヨベルなどと呼ばれる建設機械の呼称のひとつ。

※⑧ 工夫

力仕事に従事する労働者。

※⑨ 神戸空襲

第二次世界大戦末期にアメリカ軍によって行われた、神戸市およびその周辺地域に対する無差別攻撃の通称。

※① 油脂焼夷弾
ゼリー状にしたガソリンを主成分とする焼夷弾。

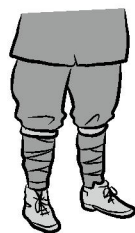
いけない。女学生だった私は防空頭巾を背にゲートル(※②)を巻いて学校へ。勉強中でも空襲警報発令とともに校庭の防空壕に……。トイレに行きたくなって壕を出て機銃掃射で亡くなった友、壕の中で直撃を受けて亡くなった友、身近な友が毎日亡くなっていった。日本国土にはじめて爆弾が落下されたのは家より1km離れた、原宿でした。

焼夷弾が燃えひろがり、ねんねこの赤ちゃんが死んでいるのに一生懸命逃げていった隣れなお母さん。やけどを負って渋谷川に飛び込み亡くなった人たちのあまりにも多いこと。B29爆撃機に向かって撃っている日本の大砲の弾が届いていない。そのうち命中心して、火だるまになって、くるくる落ちてくる飛行機に、みな歓声をあげ手を叩いているものの、はたして敵機か？日本機か？定かではない。

「玉音放送がある」というので、みな緊張してラジオの前に。はつきり日本が負けたということは信じられなかった。その後、二重橋の見える皇居に向かい玉砂利(※③)にべったり土下座して「天皇陛下、私たち国民の力が至りませんで申し訳ございません」と、軍人、学生、老若男女を問わず、伏していました。私は白いハンカチに敵に汚されていない玉砂利を一つまみ、大切に包んで持ち帰りました。東京大空襲(※④)では関東平野全部が焼け野原になったと思えました。町にはたくさん白衣を着た傷痍軍人(※⑤)、片腕のない兵隊さん、足がなくなるままいたいな兵隊さんが並んで通行人に物を乞いしている姿が隣れでした。お隣に3人の男の子がいました。真ん中のお兄さんが特攻隊(※⑥)に志願して、帰りの燃料のない飛行機に乗り、敵の軍隊に体当たり。名誉の戦死を遂げました。若干16歳の可愛い少年でした。

どんなことがあっても戦争だけはしてはいけません。大勢の日本人が泣きました。不幸になりました。女学生の私は肝に銘じてそのことを知りました。

※②ゲートル
脚絆のこと。すねに着けて足ごしらえとした紺木綿などの布。



※③玉砂利
粒が丸く、やや大きい砂利。道や庭に敷く。皇居の周りに敷きつめられていた。

※④東京大空襲
1945年(昭和20)3月10日未明、米軍のB29爆撃機約300機による東京への大規模な空襲。死者約10万人、焼失家屋は27万戸に達し、下町一帯は焦土と化した。

※⑤傷痍軍人
戦闘で負傷した軍人。

※⑥特攻隊
「特別攻撃隊」の略。第二次世界大戦で、旧日本陸海軍が体当たり戦法のために、特別に編制した部隊。爆装して敵艦に体当たりした航空特攻と、特殊潜航艇や人間魚雷などの海上特攻とがあった。



忘れない、あの日のことは……

羽曳野市 景山 マサ(83歳)

昭和17年。現在でいうところの中学2年生。戦争は日に日に激しさを増し、男たちには赤紙の召集令状が次々に送られ、男手のいなくなつた農家は大変忙しい日を送っていました。各駅では朝から日の丸の旗を手に、出征兵士(※①)を見送る人たちがいっぱいでした。

そんなある日、学校に着くと若い代用教員の先生が落ち着かない様子で私たちを待っていました。何かありそうな嫌な予感が漂っていました。

鐘がなると同時に私たちは静かに教室に入っていました。席につくと先生は真剣な表情で語り始めました。「今日は皆さんにとても大事な話をします。しっかりと聞いてください。今の日本の現状は大変な事態に突入しています。日本がアメリカに勝つためには、国民の我々は必死に戦わねばならないのです。そのためには一人でも多く、一刻も早く戦地に向かい若者ががんばるのです。お国のため、天皇陛下のため、命をかけて戦えますか」と厳しい表情でいいました。沈黙の時は流れて、「よし、僕は命をかけて戦います」と勇気のある人はこの場で手をあげてください。先生は私たちに即答を求めました。

誰も胸に迫るものがありました。沈黙が続く中、ようやく一人だけ手を挙げました。それは思いもかけない人で、『えっ！彼が…』驚きでした。普段はめつたに手を挙げない、おとなしい彼。その話は常に耳にする「青少年開拓義勇軍(※②)」でした。役場から学校を通じて、強制的に国からの命令が下つたのです。勇気のある彼に全員は力強い拍手を送りました。彼の表情は今までに見たこともない厳しい決意を秘めた堂々たるものでした。先生は速やかに彼の前に立ち、「ありがとう。よく頑張つて言ってくれました」といい「皆さん、もう一度拍手を」と歓迎の言葉を残し、校長室に駆け込みました。

※①出征兵士
軍隊に加わつて戦地に行く兵士のこと。

※②青少年開拓義勇軍
1938年(昭和13)から終戦まで、旧ソ連軍への防備や国内の農村人口増加対策のために、中国東北部に送られた10代の少年たちのこと。

それから間もなく、若き少年14歳は「青少年開拓義勇軍」として、「バンザイ！バンザイ！」の小旗が振られる歓呼の聲に送られて出て行きました。とてもやりきれませんでした。両親はもとより、学校側もどんなに悲しかったことでしょう。涙さえ出せない。恨めしい気持ちは一切口に出すことを許されなかったのです。言ったら国賊（※③）または反戦者（※④）とみなされ犯罪となるからです。勇んで戦地に行った彼はその後、半年もたたないうちにお国のため、帰らぬ人となりました。

毎年、終戦記念日（※⑤）には、遠い昔のあの日の彼のことを思い出します。

私の幼少時代（戦時下）

貝塚市 石井 正人（75歳）

太平洋戦争（第二次世界大戦）（※①）は昭和20年8月15日に終わり、日本は有史以来、初めて敗戦国となりました。当時私は、小学校4年生で、あまりの激動の日々でしたので、75歳の今でも明確に記憶しています。

私の生まれた昭和10年（1935年）は既に日本は軍国主義国家（※②）でした。日清日露戦争（※③）以来、軍閥（※④）が政治経済を、そして国会を支配し、問答無用と言って自由主義者（※⑤）を威圧し、ついには二・二六事件（※⑥）、五・一五事件（※⑦）のように政治家、財界人、首相まで暗殺するようになりました。まさに恐怖政治でした。議会も機能不能となり、自由主義的政治家は影を潜め、軍閥国家そのものです。国民は総力をあげ国防に侵略に邁進しました。

女性はパーマネットを禁止、スカートはいけない。常に綿入れ頭巾を身につけ贅沢は禁止。学生は社会主義（※⑧）に関する書物を読んではいけない。新聞、ラジオも検閲（※⑨）の上、報道するようになりました。国家方針に反する者は非国民として弾圧され、鬼畜米英（※⑩）のプロパガンダ（※⑪）で国民に米英国を憎み恐れるように仕向けました。

※③ 国賊 国の利益を害する者、国家に害を与える者。

※④ 反戦者 戦争に反対する人。

※⑤ 終戦記念日

1945年（昭和20）8月15日に第二次大戦が終結したことを記念する日。1982年（昭和57）には、この日を「戦没者を追悼し平和を祈念する日」とすることが閣議決定された。

※① 太平洋戦争（第二次世界大戦）

1941年（昭和16）12月8日の日本軍による真珠湾攻撃をきっかけにはじまった、アメリカ・イギリス・中国・ソ連など連合国との戦争。日本が日中戦争を行いつつ、南へと領土を広げたことが原因。

※② 軍国主義国家

軍事力の強化が国民生活の中で最高の地位を占め、政治・経済・文化・教育などすべての生活領域をこれに従属させようとする考え方をもった国。

※③ 日清日露戦争

日清戦争。1894～95年、中国（当時の清国）と日本が朝鮮の支配権をめぐる戦い、日本が勝った。

日露戦争。1904～05年、ロシアと日本が韓国と中国東北部（日満州）の支配権をめぐる戦い、日本が勝った。

※④ 軍閥

明治以後、軍勢力を背景に政治的権力を掌握した軍上層部の勢力。薩摩・長州の出身者を中心とし、統帥権の独立などにより特権的地位を独占したが、敗戦により崩壊。



日中戦争(※⑫)から昭和16年12月8日、太平洋戦争と続き、ハワイ真珠湾奇襲攻撃(※⑬)から本格的に米英仏蘭豪とも戦争になります。

米國と日本との衝突の原因は、中国大陸からの軍隊の撤退。満州国(※⑭)(日本の傀儡國家(※⑮) 中国東北部) 不承認の2点でした。すでに多くの軍人を失い、多額の資金を費やしている日本としてどうしても認めることが不可能でした。米國の石油、くず鉄全面禁輸により、一か八かの戦争に挑むまことに無謀な方針でした。昭和17年のミッドウエー海戦(※⑯)に破れ、19年サイパン島(※⑰)全滅によりB29爆撃機による本土空襲が日に日に激しくなり、20年の終戦まで夜もおちおち眠れなく、電灯には黒い衣をつけ灯りをほかに漏らさず、布団の上でゆっくり寝ることもできませんでした。食糧は配給制(※⑱)で米はなく、麦、サツマイモ、大豆、豆粕ばかりで極めて栄養状態が悪くなり、結核や栄養失調にかかる人が増えました。

夏も扇風機はなく、冬は暖を取ることもなく、着物は古着に継ぎあてをし、常に防空頭巾を被っていました。

ポツダム宣言受諾により、昭和20年8月。終戦となり、子どもながらホツとし、嬉しくなりました。占領(※⑲)下ではありましたが、自由、平等の平和國家となり、社会も学校も政治家も教師も自由な民主的な人間となり、貧しいながら笑いのある家庭となりました。世界全体の平和的互恵関係(※⑳)が守られ、戦争のない世の中をいつまでも続けられることを祈ります。

※⑤自由主義者
個人の権利や自由を基本とし、社会のあらゆる領域における個人の自由な活動を重んずるといふ考えを持った人。

※⑥二・二六事件
1936年(昭和11)2月26日早朝。天皇を中心とした軍隊を指揮した陸軍青年将校たちによるクーデター未遂事件。

※⑦五・一五事件
1932年(昭和7)5月15日に起こった軍備縮小に反対する海軍青年将校を中心とする反乱事件。

※⑧社会主義
生産手段の社会的共有・管理によって平等な社会を実現しようとする思想・運動。

※⑨検閲
公権力が書籍・新聞・雑誌・映画・放送や信書などの表現内容を強制的に調べること。日本国憲法では禁止されている。

※⑩鬼畜米英
鬼と畜生。残酷で、無慈悲な行いをする者の意味を敵國にたとえた。

※⑪プロパガンダ
宣伝のこと。特に、ある政治的意図のもとに主義や思想を強調する宣伝。

※⑫日中戦争
1937年(昭和12)7月からほぼ8年間にわたった日本の中国に対する侵略戦争。現在の北京郊外で起きた盧溝橋事件をきっかけに全面戦争へと進み、41年にアジア・太平洋戦争に拡大した。

※⑬ハワイ真珠湾奇襲攻撃
1941年(昭和16)12月8日午前3時(日本時間)、米國太平洋艦隊に対して日本海軍が行ったハワイ真珠湾への奇襲攻撃。これより太平洋戦争が始まった。

※⑭満州国
1931年(昭和6)の満州事変を機に、中国東北部(満州)を占領した日本の関東軍が32年に作った國家。

私の戦争体験

八尾市 石井 節子(74歳)

小学一年生の3学期、1945年2月11日。大阪府の港区に住んでいた私は、その日いつもと変わらず、学校から家に帰りました。すると、家には祖母が来ており、私をそのまま祖母の住む徳島県小松島市に連れて帰りました。疎開でした。

しかし、疎開先の徳島にも空が真っ黒になるぐらいの飛行機がやってきました。授業中にも空襲警報が鳴り、防空壕に逃げ込みました。低空飛行だったので、田植えをしていて直接、爆弾にあたった人もいました。

「日本はもう降参したほうがいい」という大人の会話をよく耳にしました。それが現実となった日、周囲の大人たちは辛く悔しくて泣いていました。しかし私は、中国へ3年間出征している父がこれでやっと帰ってこれれると思いい、嬉しい気持ちでした。でも父はなかなか帰ってきませんでした。友だちには、父は戦死しているだろうと言われました。実際、友だちの兄は生きて帰ってはきませんでした。多くの人が戦死しました。やっとな父に会えたのはそれから2年後のことでした。細く痩せ、みすばらしく変わり果てた姿で父は帰ってきました。

その時、父の持ち物といえば、下着とカンパンが少し入ったかけカバンだけでした。高価な万年筆などをカバンに入れていましたが、出征先でほとんどの持ちものを盗みとられたそうです。盗もうとする犯人に「返せ」という言葉すら出ないほど父は弱り果てていたと聞かされました。

大阪に残っていた母たちも、徳島に来て家族揃って過ごせるようになったのは、疎開した日から4年後のことでした。

あの日、私は突然なんの知らせもなく大阪から徳島に疎開したため、当時の大阪での友だちにはあれから一度も会っていません。

※⑮傀儡国家
傀儡とは、操り人形をさす言葉。主権を持たず他国に操られた国のこと。

※⑯ミッドウエー海戦

1942年(昭和17)6月5〜7日、中部太平洋ミッドウエー島攻略に向かった日本海軍機動部隊と、その企図を察知して待ち受けた米国海軍機動部隊との海空戦。日本艦隊は致命的な打撃を受けた。

※⑰サイパン島

太平洋マリアナ諸島に属する島。ドイツ領から日本委任統治領となり、太平洋戦争中は日米の激戦地で、米軍B29の基地となった。



※⑱配給制

割り当てて配ること。太平洋戦争の時は、食料が各人に配られていました。

※⑲占領

一国が他国の領土を自己の権力の下に置くこと。

※⑳平和的互惠関係

互いに平和的に特別の便宜や利益を与え合うこと。